Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第12号
2023年（令和五年） 6月30日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

6/15～6/21のNYMEX・WTI先物市場は70.50～72.53ドルの範囲で推移した。

6月22日は、英国イングランド銀行が、インフレ対策として大幅利上げを発表、ノルウェイとスイスの中央銀行も金利を引き上げ、また、米国連邦準制度理事会（FRB）のパウエル議長が米上院委員会で、年内2回の追加利上げ実施を証言、景気後退懸念が高まり、大幅に反落、70ドルを割り込んだ。なお、米国石油在庫は、原油は取り崩しだったが、製品は積み増しで、影響は限られた。8月物終値は前日比3.02ドル安の69.51ドル。

週末23日は、前日のパウエルFRB議長証言・欧州各国の利上げ決定に続き、サンフランシスコ連銀総裁も、年内追加利上げを主張したことで、景気減速懸念が一段と高まり、小幅ながら続落した。8月物終値は0.35ドル安の69.16ドル。

週明け26日は、週末のロシアの民間軍事会社ワグネルをめぐる緊張による供給懸念や7月からのサウジの自主追加減産をめぐる思惑を反映して、3営業日ぶりに反発した。ただ、欧米の利上げによる景気後退警戒感も依然として根強く、上値は重かった。8月物終値は、0.21ドル高の69.37ドル。

27日は、ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁が講演で利上げ継続を示唆するなど、欧米の利上げ長期化懸念から、反落した。また、中国経済の減速懸念も値下がり要因。8月物終値は1.67ドル安の67.70ドル。

28日は、米国の石油在庫週報で、原油在庫が予想以上に減少、先行き需給の引き締まりが意識され、反発した。ただ、パウエルFRB議長は、講演で、金利引き上げ継続を示唆、ラガルトECB総裁も、同じ会合で、欧州の利上げに言及、景気後退懸念から、上値は限定的だった。8月物終値は1.86ドル高の69.56ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、6月15日～21日の間、73.10～75.40ドルの範囲で推移した。6月22日76.50ドル、23日73.30ドル、26日74.20ドル、27日74.70ドル、28日73.00ドルで推移した。

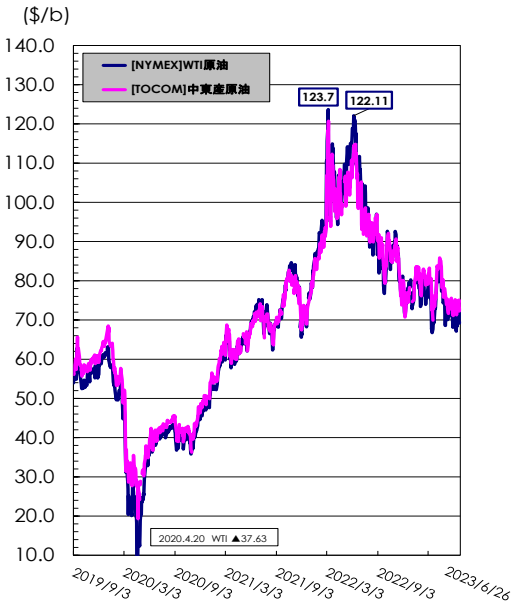
対ドル為替レート（TTM）は、6月15日～21日の間、140.32～142.23円の範囲で推移した。6月22日141.97円、23日143.17円、26日143.49円、27日143.63円、28日143.87円で推移した。

財務省が6月29日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、72,395円で、前旬比1,392円安、ドル建て83.26ドルで前旬比3.28ドル安、為替レートは1ドル/138.22円だった。

そのような中で、6月26日時点の価格は、ガソリンが前週比0.9円の値上がり、軽油も同0.8円の値上がり、灯油は同10円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は171.0円であった。

また、6月29日からの燃料油価格激変緩和補助金は30%縮減となり、29日～7月5日の補助金の支給額は9.7円（従来ベースの補助額13.9円）となった。

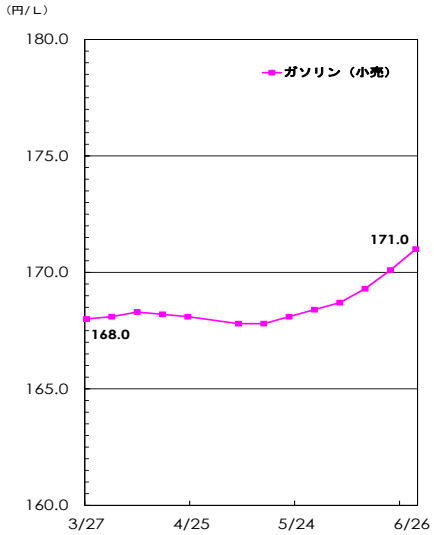
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	6/18 ～ 6/24	2,539	▲ 171	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	68.5	▲ 4.6	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	6/24	11,310	▼ -434	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	6/26	72.71	▼ -1.67	▼ -28.0
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	6/26	69.37	▼ -1.13	▼ -40.2
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	6月上旬	83.26	▼ -3.28	▼ -33.66
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	72,395	▼ -1,392	▼ -23,482
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	138.22	▼ -2.66	▼ -7.85
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	6/26	144.49	▼ -1.52	▼ -8.88



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/18 ～ 6/24	823	▲ 16	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	743	▼ -108	▼ –
	輸出		〃	52	▲ 51	▲ –
	在庫		6/24	1,625	▲ 29	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	6/20 ～ 6/26	79.0	▲ 0.3	▼ -4.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/20 ～ 6/26	79.0	▲ 4.8	▼ -6.6
		(TOCOM/中部)	6/26	79.0	▼ -0.2	▼ -1.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/26	171.0	▲ 0.9	▼ -3.9

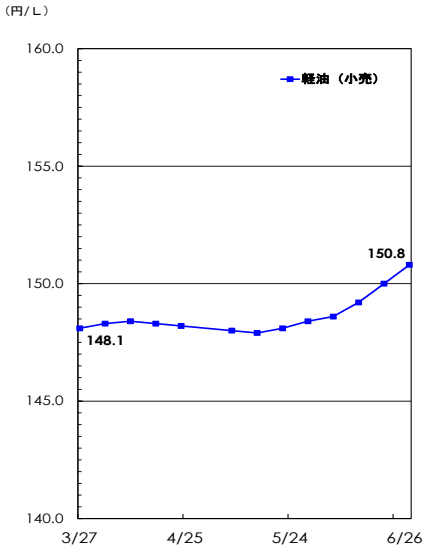
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

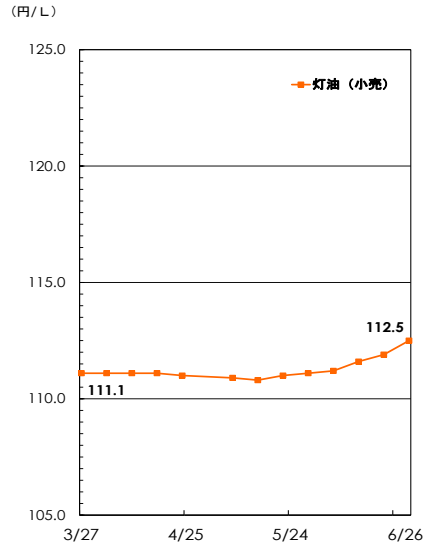
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/18 ～ 6/24	619	▼ -8	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	499	▲ 9	▼ –
	輸出		〃	147	▲ 96	▲ –
	在庫		6/24	1,421	▼ -27	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	6/20 ～ 6/26	79.1	▲ 0.8	▼ -4.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/20 ～ 6/26	81.3	▲ 0.8	▼ -12.7
		(TOCOM/中部)	6/26	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/26	150.8	▲ 0.8	▼ -3.9

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/18 ～ 6/24	113	▼ -31	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	53	▼ -42	▲ –
	輸出		〃	50	▲ 50	▲ –
	在庫		6/24	1,493	▲ 10	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	6/20 ～ 6/26	79.9	▲ 0.8	▼ -1.0
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/20 ～ 6/26	79.2	▲ 0.2	▼ -0.6
		(TOCOM/中部)	6/26	80.0	▼ -0.5	▼ -1.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	6/26	112.5	▲ 0.6	▼ -2.8



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（6月22日～28日）のWTI石油先物市場は、22日の大幅反落・70ドル割れの69.51ドルで始まり、26日には3営業日ぶりに反発したが、欧米の利上げ継続の観測による景気後退懸念が強く、一週を通じて60ドル台終わりで推移、28日は69.56ドルで終わった。

6月22日発表の16日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は380万バレル減と市場予想を上回る取り崩しであったが、ガソリン在庫は50万バレル増・中間留分在庫は40万バレル増と小幅な積み増しとなり、まちまちの結果となった。また、28日発表の23日時点の同統計によれば、原油在庫は960万バレル減と市場予想（180万バレル）を大きく上回る取り崩しで、市場反発の大きな要因となった。

EIAによると、6月26日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値下がりの1ガロン3.571ドル（136.1円/㍑）と2週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.4セント値下がりの1ガロン3.801ドル（144.9円/㍑）と2週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月23日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比6基減の546基と2週連続の減少。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2023年6月18日～6月24日に休止したトッパー能力は60.0万バレル/日で、前週に対して22.8万バレル/日減少した（全処理能力は333.1万バレル/日）。原油処理量は253.9万klと、前週に比べ17.1万kl増加。前年に対しては17.6万klの減少。トッパー稼働率は68.5%と前週に対して4.6ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.0%増、ジェット/45.8%増、灯油/21.8%減、軽油/1.3%減、A重油/6.0%増、C重油/3.4%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.6万kl減）。軽油の輸出は14.7万kl（前週比9.6万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べて軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は74.3万kl（対前週12.6%減）と2週振りに減少した。ジェット7.3万kl（対前週4.7%減）、灯油5.3万kl（対前週43.8%減）、軽油49.9万kl（対前週1.9%増）、A重油17.5万kl（対前週4.0%減）、C重油13.7万kl（対前週14.7%減）。

（単位：千KL）

	今週 (6/18 ~ 6/24)	前週 (6/11 ~ 6/17)	前週比	
ガソリン	743	851	▼ -108	(-13%)
ジェット燃料	73	77	▼ -4	(-5%)
灯油	53	95	▼ -42	(-44%)
軽油	499	490	▲ 9	(2%)
A重油	175	183	▼ -8	(-4%)
C重油	137	161	▼ -24	(-15%)
合　計	1,680	1,857	▼ -177	(-10%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

6月24日時点の在庫はジェット、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは162.5万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

灯油は149.3万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては8.8万kl多い。

軽油は142.1万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては3.9万kl多い。

A重油は69.3万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては0.8万kl少ない。

C重油は192.8万kl、前週差5.2万kl増。前年に対しては14.2万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (6/24)	前週 (6/17)	前週比	
ガソリン	1,625	1,596	▲ 29	(2%)
ジェット燃料	749	755	▼ -6	(-1%)
灯油	1,493	1,483	▲ 10	(1%)
軽油	1,421	1,448	▼ -27	(-2%)
A重油	693	681	▲ 12	(2%)
C重油	1,928	1,876	▲ 52	(3%)
合　計	7,909	7,839	▲ 70	(0.9%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

6月20日～26日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円安も加わり、元売会社の円建て原油コストは2.5円値上げしたものと見られる。

上記コストに先週の補助金額9.0円を加え、今週の補助金9.7円を差し引いた、6/29～7/5の実質卸価格は1.8円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

6月20日～26日の製品スポット市況は、6月13日～19日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近週（6/20～6/26）の陸上スポット価格平均値は、前週（6/13～6/19）比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油も0.8円の値上がり、軽油も0.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（6/20～6/26）に、前週（6/13～6/19）比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油も0.2円の値上がり、軽油も1.2円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは4.8円の値上がり、灯油も0.2円の値上がり、軽油も0.8円の値上がりだった。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(6/20 ~ 6/26)	前週　(6/13 ~ 6/19)	前週比
スポット価格	レギュラー	79.0	78.7	▲ 0.3
	灯油	79.9	79.1	▲ 0.8
	軽油	79.1	78.3	▲ 0.8

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(6/20 ~ 6/26)	前週　(6/13 ~ 6/19)	前週比
先物価格	レギュラー	79.0	74.2	▲ 4.8
	灯油	79.2	79.0	▲ 0.2
	軽油	81.3	80.5	▲ 0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値　（6/20～6/26実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.3	▲ 4.8	▲ 2.5
灯油	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 0.5
軽油	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.8
A重油	▲ 1.0		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

6月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円高の171.0円、軽油も0.8円高の150.8円、灯油も18㍑ベースで10円高の2,025円（1㍑ベースでは0.6円高の112.5円）。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは44都道府県、横ばいは2県、値下がりは1県だった。全国最安値は岡山県の165.1円、その次は青森県の165.6円であった。他方、最高値は長野県の181.2円だった。最も値上がりしたのは福島県（前週比2.7円高）、横ばいは高知県と大分県、最も値下がりしたのは愛知県（同0.4円安）だった。

次回調査時（7/3）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

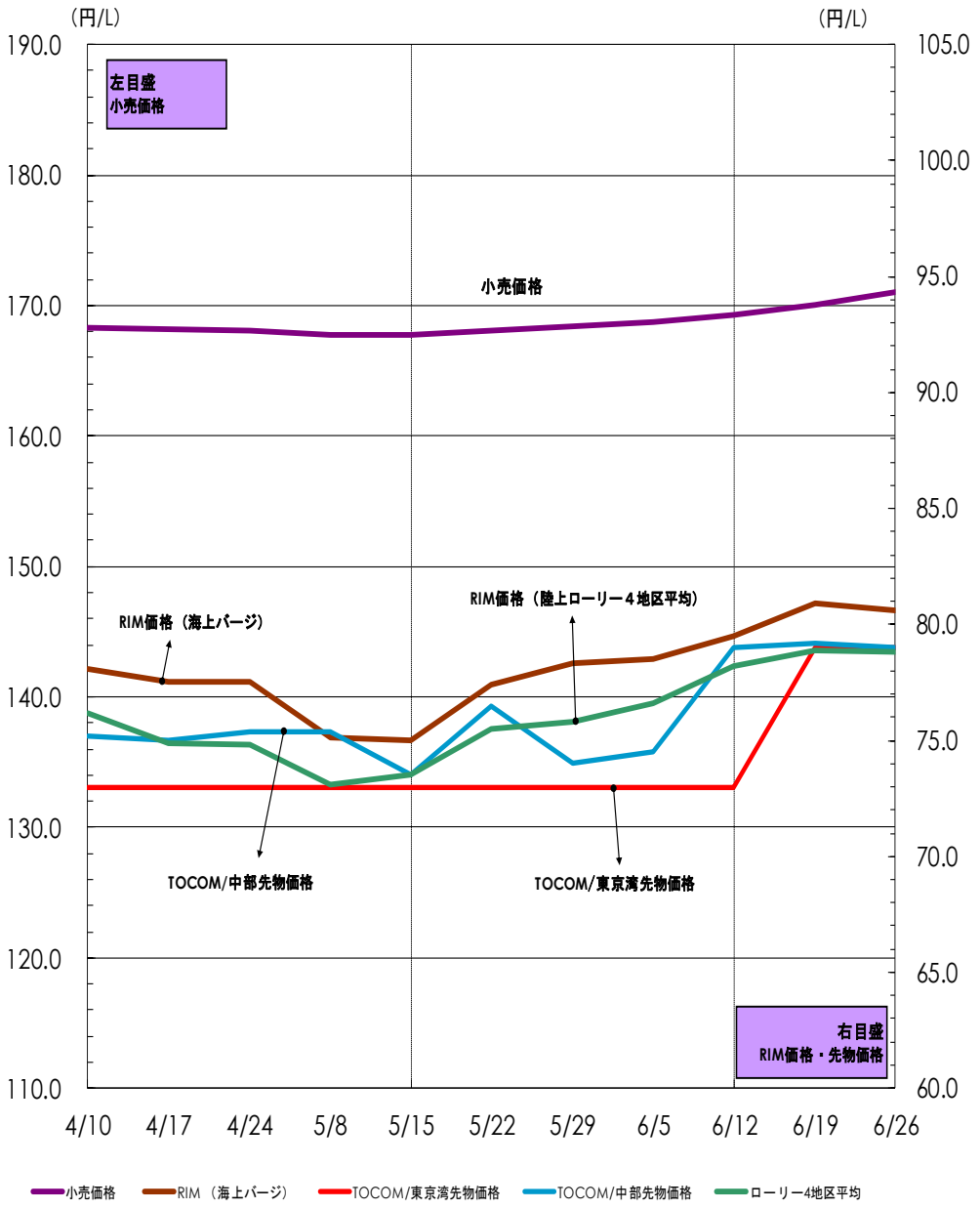
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(6/26)	前週　(6/19)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	171.0	170.1	▲ 0.9	08/8/4	185.1
	灯油	112.5	111.9	▲ 0.6	08/8/11	132.1
	軽油	150.8	150.0	▲ 0.8	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/4/10　～　2023/6/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第13号）の公表は、7/7（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。